学校だより　令和3年度　3月号

なつのくも

第150号（R4．3．1）　練馬区立光が丘夏の雲小学校

本校ホームページ
携帯・スマホ用サイト
でもご覧ください。

立ち止まり　命の尊さ　思うとき　見える世界は　色鮮やかなり

校長　牧 野 光 洋

あちこちで花の蕾がほころび、目に映る色彩がどんどん鮮やかになっていく季節を迎えました。地球の成分は、地球誕生の頃から、大きく変化していないそうです。たまに隕石が宇宙から入ってくるくらいでしょうか。言うなれば閉鎖されたこの地球という空間の中で、何億年もの間、命の生き死にが繰り返されてきました。このように考えるとこの体を構成している成分も今偶然私の体を作っているだけで、一昔前は昆虫だったり、植物だったりしたもの。地球の成分のほんの一滴が、偶然人間という形を取って今ここに存在しているのです。言葉にできないくらいの偶然と奇跡が重なり、人という形を取って地球からこぼれ落ちた一滴。それが私たちの命です。だからこそ一粒一粒の命が尊い。粗末に使ってはいけないのです。寿命は何年、というように、命とは時間そのもの。この奇跡の塊のような一生というひとときを大切に使わせていただく。それは、意識をして大切に時間を過ごすということです。そんなひとときが、命に充実感をもたらすのではないでしょうか。何億年も繋がってきた命の重さを知るとき、この命を大切に生きなくてはな、と感じることができます。命の尊さを思うとき、世界は色鮮やかに映ります。この春空の中、外に出てみてください。どこまでも透き通るような空の青。地面から伸びる太い幹の茶色、その間を埋めるように咲き始めた花びらの薄桃色。心一つで世界はより鮮やかに味わい深く映るのです。年度が変わります。花吹雪を追い風にして来年度もスタートです。学校は、社会のニーズに合わせて変化し続けていきます。目の前にいる子供たちは 10 年後の多様な国際社会で「なりたい自分」になるために学んでいます。言い換えれば、10 年後の社会のニーズに応じて活躍する人材を育てるのが学校の使命です。学校は、「ある」ものではなく、激変する社会のニーズを先取りしながら「つくる」ものでなければ社会で生きて働く力は育てられません。学びの主体である子供自ら自分の学校をつくる。自分がつくる自分の学校はみんなが大事にします。まずは今の自分にできることから始める。それは皆さんに伝えたい「ことば」。挨拶、美しい言葉遣い、相手を思いやる「恕」の心です。この一年間ご理解ご協力を賜り本当にありがとうございました。